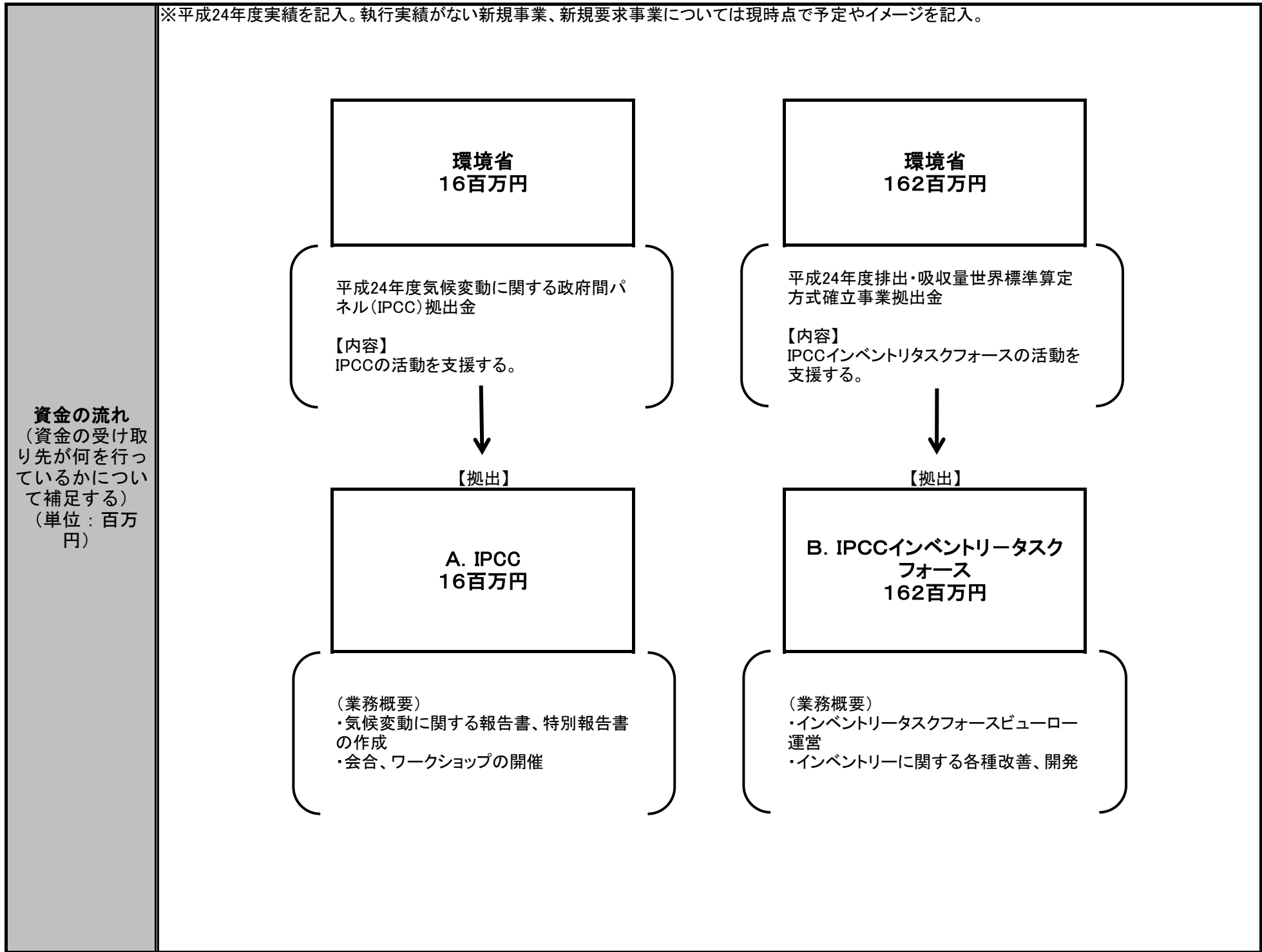


平成25年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	排出・吸収量世界標準算定方式確立事業拠出金等		担当部局	地球環境局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成9年度～未定		担当課室	総務課研究調査室		室長 辻原 浩	
会計区分	一般会計		政策・施策名	2. 地球環境の保全 2-2 地球環境保全に関する国際連携・協力			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	京都議定書目標達成計画			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖化対策に係る各種施策の基盤となる科学的知見をインプットする気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の活動を支援する。</li> <li>・我が国がIPCC14回総会においてテクニカルサポートユニットの運営等を引き受けたIPCCのインベントリータスクフォースの活動を支援する。</li> </ul>						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>■気候変動に関する政府間パネル(IPCC)拠出金(平成9年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IPCCの科学的知見が国際的枠組みの構築の基盤となっていることを踏まえ、IPCCの活動や各種報告書作成に貢献すべく、環境省はIPCCに対し拠出金により支援する。</li> </ul> <p>■排出・吸収量世界標準算定方式確立事業拠出金(平成11年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国はIPCC第14回総会において、インベントリー(温室効果ガスの排出目録)方法論改訂、確立に向けた作業を集中的に実施するためのタスクフォースのテクニカルサポートユニットの運営等を引き受けることを提案、了承された。環境省はタスクフォース活動を拠出金により支援する。</li> </ul>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		当初予算	181	177	178	166	166
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
	計	181	177	178	166	166	
	執行額	181	177	178	-	-	
執行率(%)	100%	100%	100%	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値(年度)
	拠出金による活動支援であり、定量的な指標を設定することが困難		成果実績	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	拠出金による活動支援であり、定量的な指標を設定することが困難		活動実績(当初見込み)	-	-	-	-
				( - )	( - )	( - )	( - )
単位当たりコスト	-		(円/ - )	算出根拠	-		
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	経済協力開発機構等拠出金	166	166	-			
	計	166	166				

事業所管部局による点検					
	項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	IPCCの科学的知見やインベントリー(温室効果ガスの排出目録)は温暖化対策に係る各種施策や国際交渉の基盤となるものであり、かつ地球温暖化の影響への国民の関心の高さを鑑みれば、国が実施すべき事業である。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-	本拠出金はIPCCの報告書作成に必要な経費、及び地球環境戦略研究機関(IGES)内のIPCCインベントリータスクフォースのテクニカルサポートユニットの運営等を支援するものであるから、その用途は真に必要なものに限定されているといえる。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		-		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-		
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-		
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	インベントリガイドラインの作成を通じ、より精緻な吸排出量の報告に向けた体制構築に貢献している。また本活動を通じ、我が国の気候変動問題解決に向けた積極的な姿勢を国際社会に示している。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名		
点検結果	各国の気候変動政策やUNFCCCをはじめとする国際交渉の場に対するIPCCの役割の重要性は増しているが、一方でクライメートゲート事件等によりゆらいだ信頼性を回復させるためのIPCC改革も必要となっている。我が国の拠出金及びインベントリタスクフォース支援は、他国の支援とあいまって、IPCC WG I ~WG IIIの活動(再生可能エネルギー特別報告書、極端現象特別報告書・第5次評価報告書)及びタスクフォースの活動(2013 Wetlands Supplement、2013 KP Supplement の作成等)に貢献している。IPCCの国際的重要性が高まる中、我が国からも積極的に関与すべく、拠出金によるIPCC改革とIPCC活動に対し支援を充実させていく必要がある。				
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	引き続き必要最低限の拠出となるよう検討を進めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
縮減	必要最低限の要求額とした。				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年	017	平成23年	014	平成24年	014

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.IPCC			B.IPCCインベントリータスクフォース		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	拠出金	気候変動に関する政府間パネル(IPCC)拠出金	16	拠出金	排出・排出量世界標準算定方式確立事業拠出金	162
	計		16	計		162

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	IPCC	・気候変動に関する報告書、特別報告書の作成 ・会合、ワークショップの開催	16	拠出金	—

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	IPCCインベントリータスクフォース	・インベントリータスクフォースビューロー運営 ・インベントリーに関する各種改善、開発	162	拠出金	—